

日本女子大学 文部科学省委託事業「平成30年度 男女共同参画推進のための学び・
キャリア形成支援事業」における実証事業及び研究協議会の実施について
委託事業名「女性の学びとキャリア形成・再就職支援を一体的に行う仕組みづくりと
ニーズ調査によるリカレント教育モデル構築のための実証事業の実施」

【実施スケジュール】

正式な採択が2ヶ月近く遅れたこともあり、当初のスケジュールを大きく変更せざるをえなかった。実際の実証事業は以下のように進めたことを報告する。

2018年6月13日(水)

文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課より採択可(条件付)の通知

2018年8月16日(木)

文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課より委託事業採択の通知

2018年9月21日(金)

第1回 実証事業実行委員会開催

2018年11月9日(金)

株式会社マクロミル 全国社会人女性対象 モニタ調査開始

2018年11月10日(土)

株式会社マクロミル モニタ調査終了 930名回答

2018年11月13日(火)

社会人女性・企業対象 WEB アンケート開始

2018年11月19日(月)

第2回 実証事業実行委員会開催

2018年12月7日(金)

豊島区在住女性 WEB アンケート回答開始

2018年12月10日(月)

実証事業参加申込開始(WEB 申込フォームにて)

2018年12月14日(金)

実証事業フライヤー配付開始

2018年12月15日(土)

実証事業 第1回:

「英国式 頭のコリが取れ、心も豊かになるマインドフルネス」開催

2018年12月16日(日)

豊島区在住女性 WEB アンケート回答終了 266名回答

2018年12月19日(水)

WEB アンケート入力画面終了

2018年12月20日(木)

WEB アンケート回答データ納品

(社会人女性 1,624 アクセス、931 名回答、法人用 896 アクセス→237 名回答)

2018年12月22日(土)

実証事業 第2回:

「職場でイキイキ働くためのメンタルヘルスとストレスマネジメント」開催

実証事業 第3回:

「職場で役立つコミュニケーションスキル」開催

全国女性会館協議会による視察、本学関係者との意見交換を実施

2019年1月23日(水)

文京区内企業ヒアリング(株)プロ アルテ ムジケ

2019年1月26日(土)

実証事業 第4回:

ダイバーシティセミナー「働き方のキーワード ダイバーシティを理解する」開催

2019年1月29日(火)

実証事業 第5回:「業務効率を上げるタイムマネジメント」開催

本学・全国女性会館協議による実証事業参加受講生ヒアリング実施

2019年1月30日(水)

文京区内企業ヒアリング(株)リナリマ

2019年2月24日(日)

「女性の『学ぶ・働く・生きる』応援フェスタ」にて事例発表

特定非営利活動法人 全国女性会館協議会主催

2019年3月1日(金)

第3回実行委員会

報告会開催

2019年3月15日(金)

報告書提出

第3章 受講対象者のニーズ実態調査

3.1 アンケートの作成

女性を対象とした全国レベルでのリカレント教育の受講を希望する女性に対するニーズの実態を把握し、関東、中部、関西、中国地方での地域差について、調査の中から見出すことを目指す。現在の受講生、修了生、受講を希望する女性、受講を希望しない女性へのアンケートを同時に行うことにより、各グループ間でのカリキュラム、再就職に対する意識や希望などの違いを抽出する。

《調査による把握内容》

受講希望者のニーズ把握

- ① 学びたい分野、ビジネススキル、教養スキルについて把握する。(首都圏、首都圏以外)
- ② 学ぶ環境が不足している受講希望者の状況を把握する。(首都圏、首都圏以外)
- ③ 目指す職業に就くために必要とされる能力について把握する。(首都圏、首都圏以外)
- ④ 学びたい期間(受講期間)について把握する。(首都圏、首都圏以外)
- ⑤ 学ぶために自己投資できる金額について把握する。(首都圏、首都圏以外)

リカレント教育実施団体のリカレント教育プログラムの開発・検証カリキュラム等の改善・新規プログラムの構築

- ① 教育上の課題を明確化し、改善につなげる。
- ① リカレント教育実施団体が備えている機能の有効性について検証する。
- ② 地域差を把握し、開講すべきプログラムの相違点を明確化し、新規プログラムの検証授業の実施行う。
- ③ リカレント教育課程が開講すべき教育プログラムを明確化する。
- ④ リカレント教育の方法、オンデマンドやサテライトを利用したディスタンスラーニングについても必要性を確認する。(首都圏以外の受講希望者のニーズへの対応)

《作成したアンケート》

上で述べたように、受講希望者のニーズと新規プログラムの構築に必要な情報を得るための設問について、実行委員で意見を出し合い、推敲を重ねて検討しアンケートを作成した。作成したアンケートについては巻末の資料集に掲載したので参照されたい。

3.2 ニーズ調査の実施

当初、被調査者を5つのカテゴリーに分け、調査対象者の有効回答サンプル数は600を目標としたが、実際には以下に示す「Ⅰ. モニタ調査」と「Ⅱ. 実行委員会による調査」の2本立ての調査とし、最終的には2000に近い女性からの回答を得た。

Ⅰ. モニタ調査

《調査対象者》

マクロミルに依頼し、日本全国における25歳～54歳の一般女性、930名に対する調査を行った。

■調査方法	インターネットリサーチ
■実施機関	株式会社マクロミル
■商品種別	QuickMill
■実施期間	2018年11月09日(金)～2018年11月10日(土)
■割付条件	マクロミルのモニタ会員
	25-29歳 155
	30-34歳 155
	35-39歳 155
	40-44歳 155
	45-49歳 155
	50-54歳 155
	合計 930名

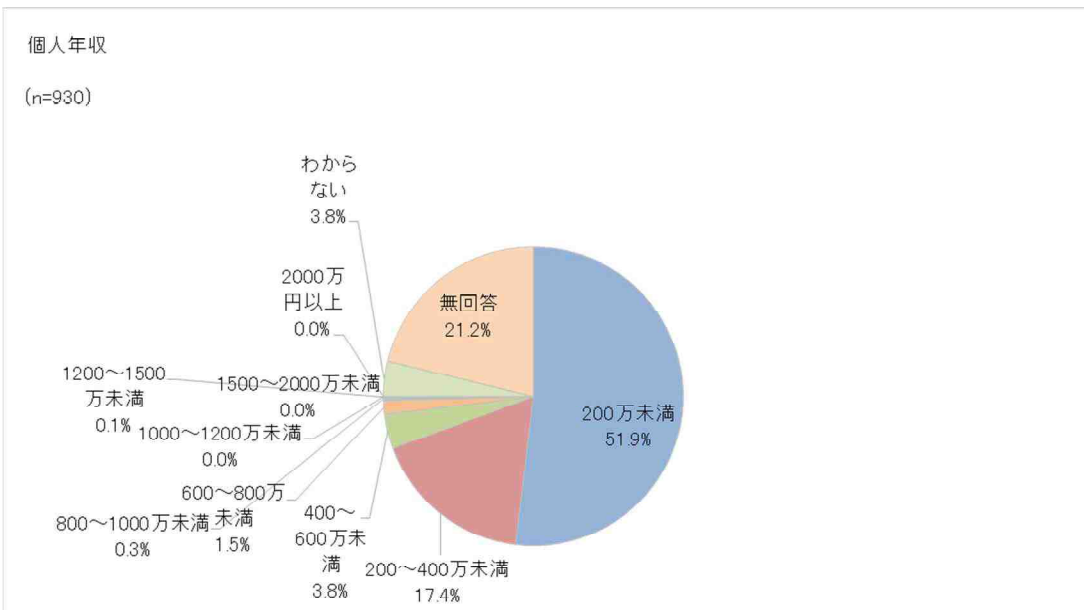
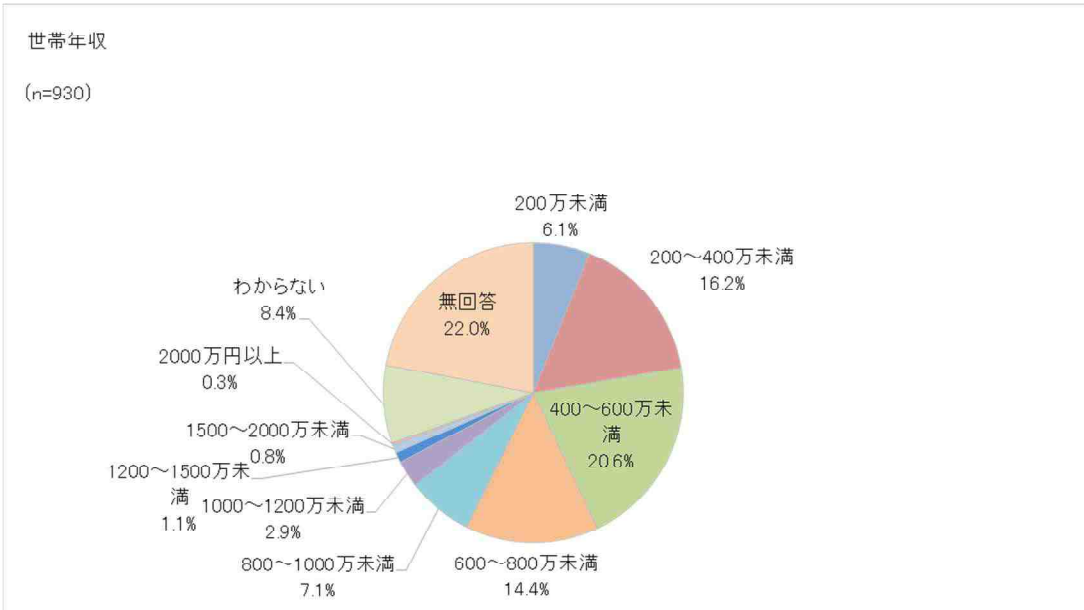
(1) 回答者のプロフィールについて

回答者の居住地を次の表に示す。当然ながら首都圏と大都市を持つ大阪、福岡、愛知の人数が多くなっているが、日本全国にわたって回答が得られていることがわかる。

回答者の居住地

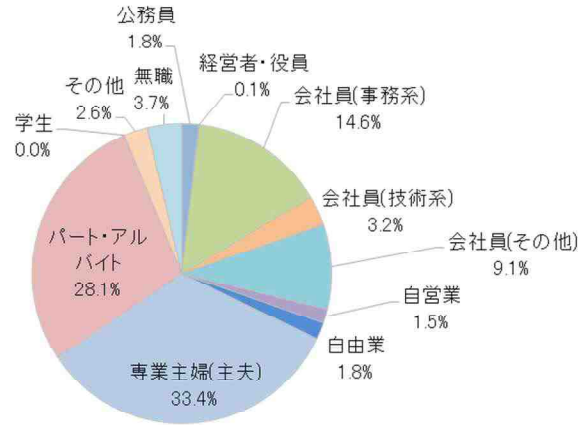
都道府県	回答数 (人)	%	都道府県	回答数 (人)	%
北海道	57	6.1	滋賀県	8	0.9
青森県	11	1.2	京都府	22	2.4
岩手県	4	0.4	大阪府	86	9.2
宮城県	19	2.0	兵庫県	40	4.3
秋田県	10	1.1	奈良県	16	1.7
山形県	7	0.8	和歌山県	9	1.0
福島県	13	1.4	鳥取県	1	0.1
茨城県	19	2.0	島根県	4	0.4
栃木県	12	1.3	岡山県	11	1.2
群馬県	7	0.8	広島県	13	1.4
埼玉県	55	5.9	山口県	6	0.6
千葉県	44	4.7	徳島県	3	0.3
東京都	104	11.2	香川県	10	1.1
神奈川県	84	9.0	愛媛県	13	1.4
新潟県	15	1.6	高知県	2	0.2
富山県	7	0.8	福岡県	36	3.9
石川県	11	1.2	佐賀県	3	0.3
福井県	4	0.4	長崎県	8	0.9
山梨県	6	0.6	熊本県	13	1.4
長野県	8	0.9	大分県	6	0.6
岐阜県	16	1.7	宮崎県	3	0.3
静岡県	27	2.9	鹿児島県	10	1.1
愛知県	46	4.9	沖縄県	7	0.8
三重県	14	1.5	全体	930	100.0

次に回答者の職業、年収、家族構成について以下のグラフに示す。



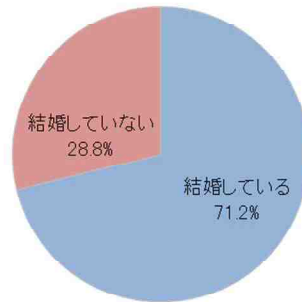
職業

(n=930)



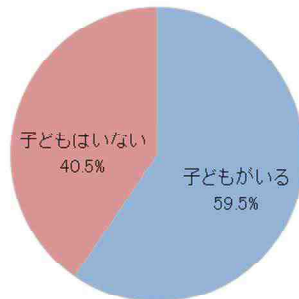
[Q1]現在、あなたのご結婚なごっていますか。

(n=930)



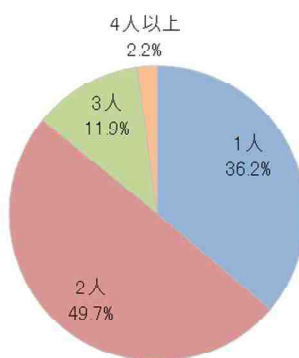
[Q2]お子さんについてお伺いします。お子さんはいらっしゃいますか。

(n=930)



[Q3]お子さんの人数についてお伺いします。

(n=553)

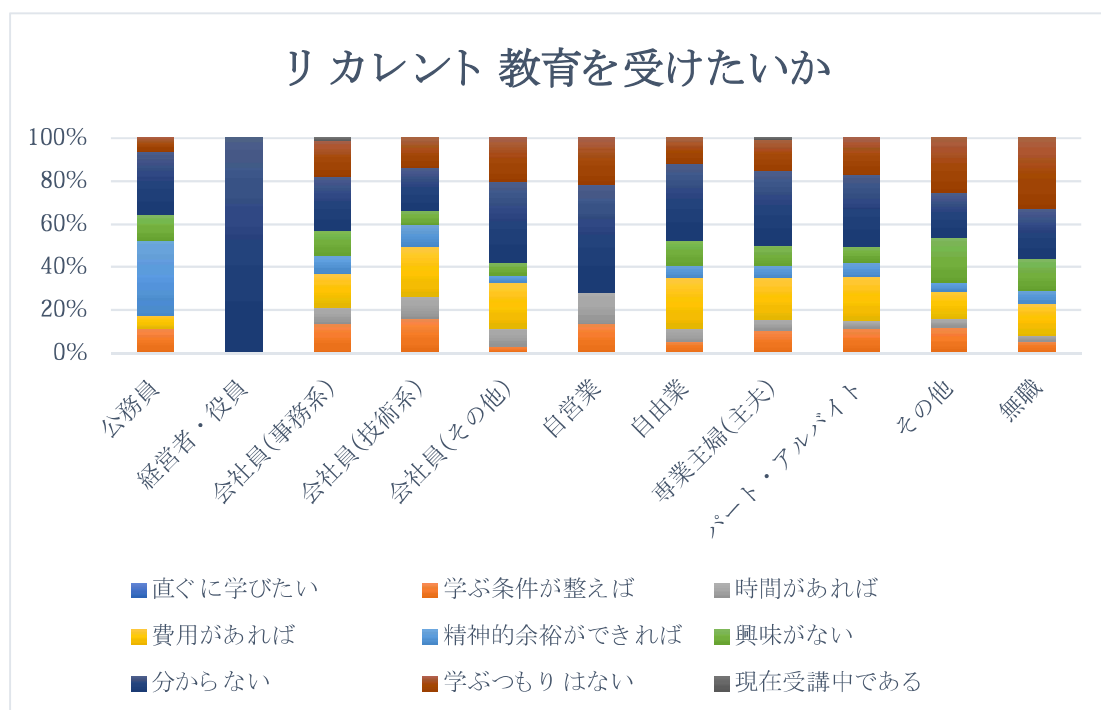


(2) アンケートの集計結果と分析

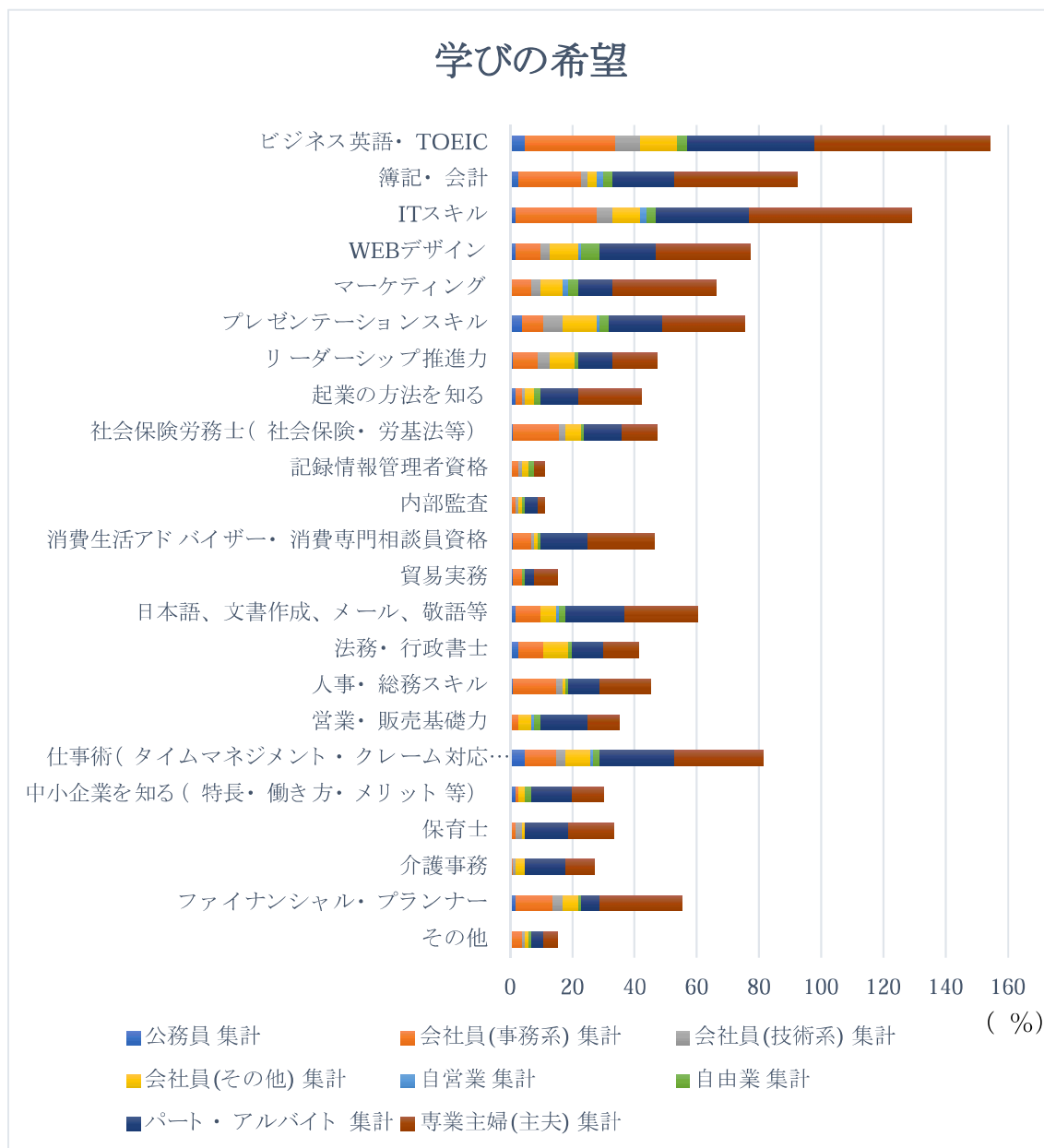
まず、「リカレント教育」の認知度に関する結果を下の表に示す。「リカレント教育」を初めて聞いたと答えた人が85%と、リカレントの認知度がまだまだ低いことが分かる。

リカレント教育を知っているか	全体(人)	%
知っている	29	3.1
聞いたことがある	103	11.1
このアンケートで初めて知った	798	85.8
合計	930	100.0

また、次のグラフに示すようにリカレント教育を受講したいかどうかについても、「わからない」が32%、「学ぶつもりはない」が17%、「興味がない」が9%であり、積極的な学びを希望していないように見えるが、「学ぶ条件が整えば」「時間があれば」「費用があれば」「精神的余裕ができれば」を合わせると、現在仕事に就いているうち、公務員 53%、会社員(事務系) 46%、会社員(技術系) 60%、会社員(その他)36%と、かなり学びについての希望をもっていることが分かる。現在仕事についていない専業主婦は「学ぶ条件が整えば」11%、「時間があれば」5%、「費用があれば」19%、「精神的余裕ができれば」6%と41%が、またパート・アルバイトも「学ぶ条件が整えば」11%、「時間があれば」3%、「費用があれば」21%、「精神的余裕ができれば」7%と42%が、リカレント教育を受講の可能性を持つ。これまでブランクのある女性、非正規雇用の女性に対するリカレント教育だけでなく、仕事に就いている層に対してのリカレント教育も必要性が高いことが確認できる。



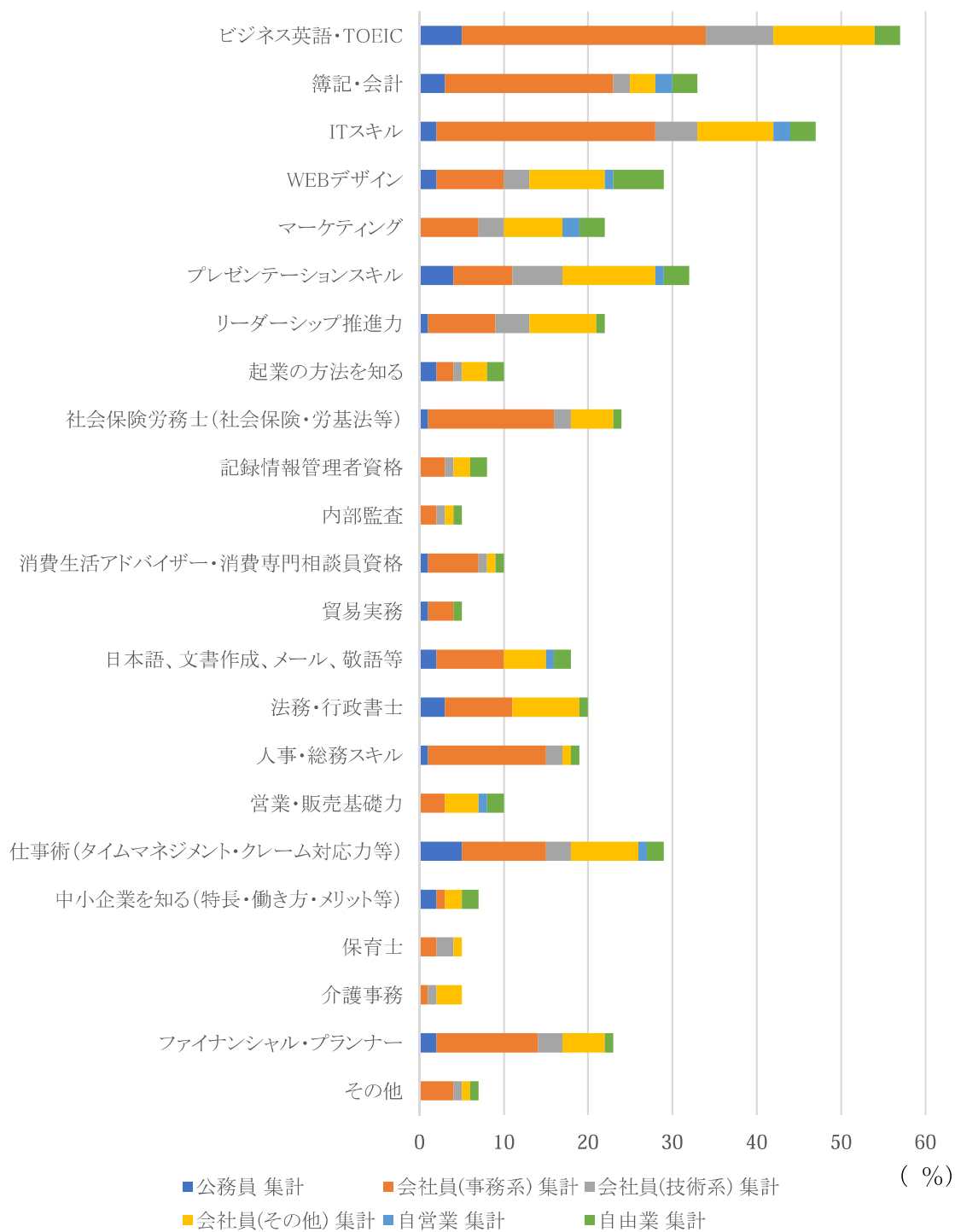
次に新たな学びとしてどのような内容を希望しているかについては、詳細な集計は今回示さないが、仕事に就いている人と主婦・パートの人の結果を示しておく。



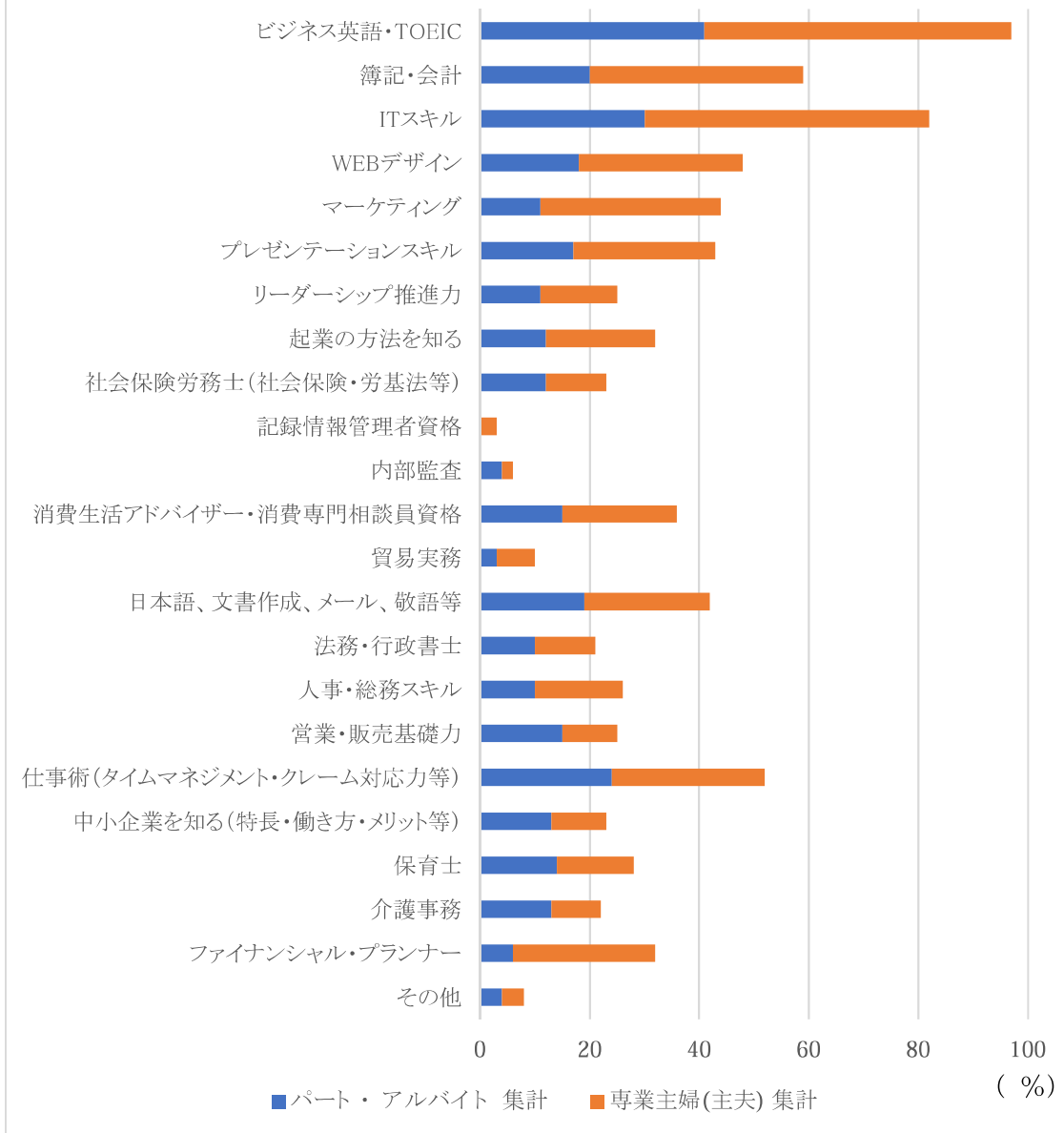
グラフからわかるように、「学びの希望」の上位は英語、ITスキル、簿記・会計、仕事術、webデザイン、マーケティング、プレゼンテーション能力、日本語能力である。

また、仕事に就いている人が、主婦・パートよりも学びたいとしているものに「プレゼンテーションスキル」が挙げられる。仕事の現場での実体験としてのスキル不足を感じているということでもあり、新たなプログラムの中には充実した「プレゼンテーション力」を身に付けられるような講座が必須である。希望の多い「仕事術」の中には、タイムマネジメントもありは、クレーム対応術など対人コミュニケーションに関わるものについての希望が大きいということであろう。

仕事に就いている人の学びの希望



パート・アルバイト、専業主婦の学びの希望



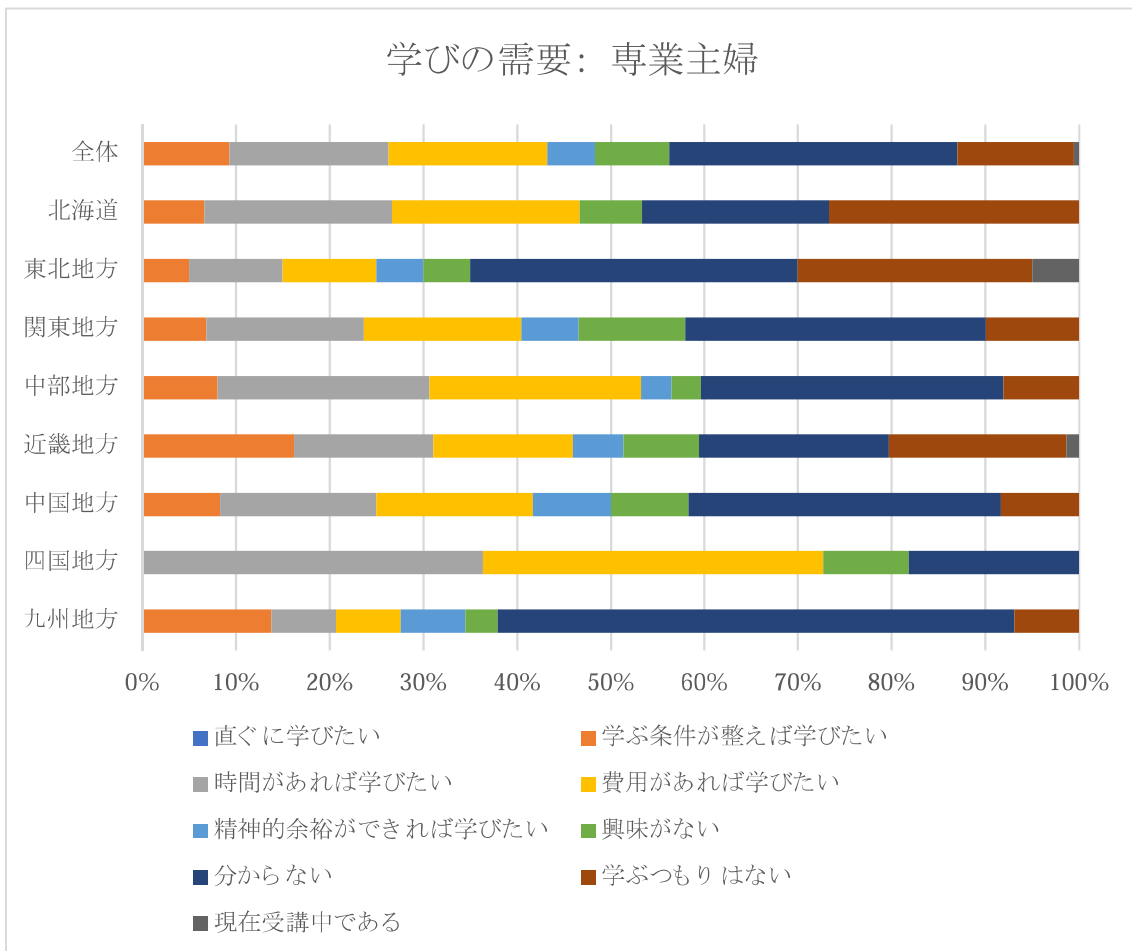
現在のリカレント教育カリキュラムの中に入っているが、女性の学びのニーズがあまり多いとは言えないものに、「貿易実務」「内部監査」「記録情報管理者資格」が挙げられる。女性にとってビジネスで必要性が高いと思わないものなのであろう。「記録情報管理者資格」どのような職に就いても必要不可欠な内容である。

学びの需要についての地域的な差があるのかを大まかにみたものを次のグラフに示す。回答者の地域には少々ばらつきがみられるものの、東北地方、九州地方は主婦が働くことが許されないことを示しているなど、地域的差を読み取ることができる。今後、この地域差については、改めて検討を行っていきたい。

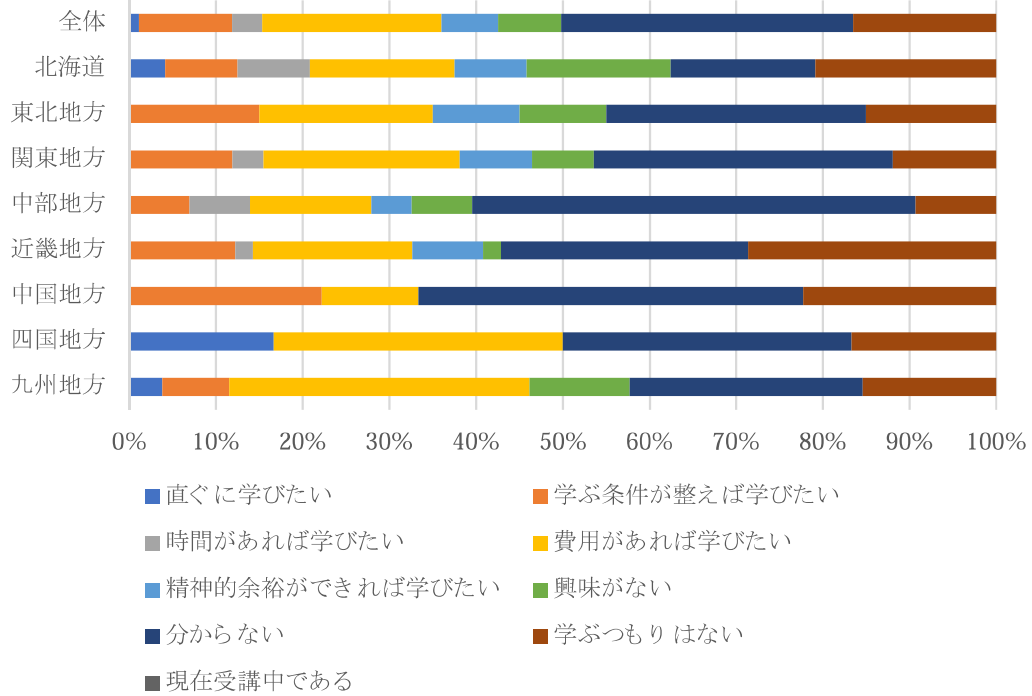
地域別の回答者数

地域	回答者数（人）	%
北海道	57	6.1
東北地方	64	6.9
関東地方	325	34.9
中部地方	154	16.6
近畿地方	181	19.5
中国地方	35	3.8
四国地方	28	3.0
九州地方	86	9.2
全体	930	100.0

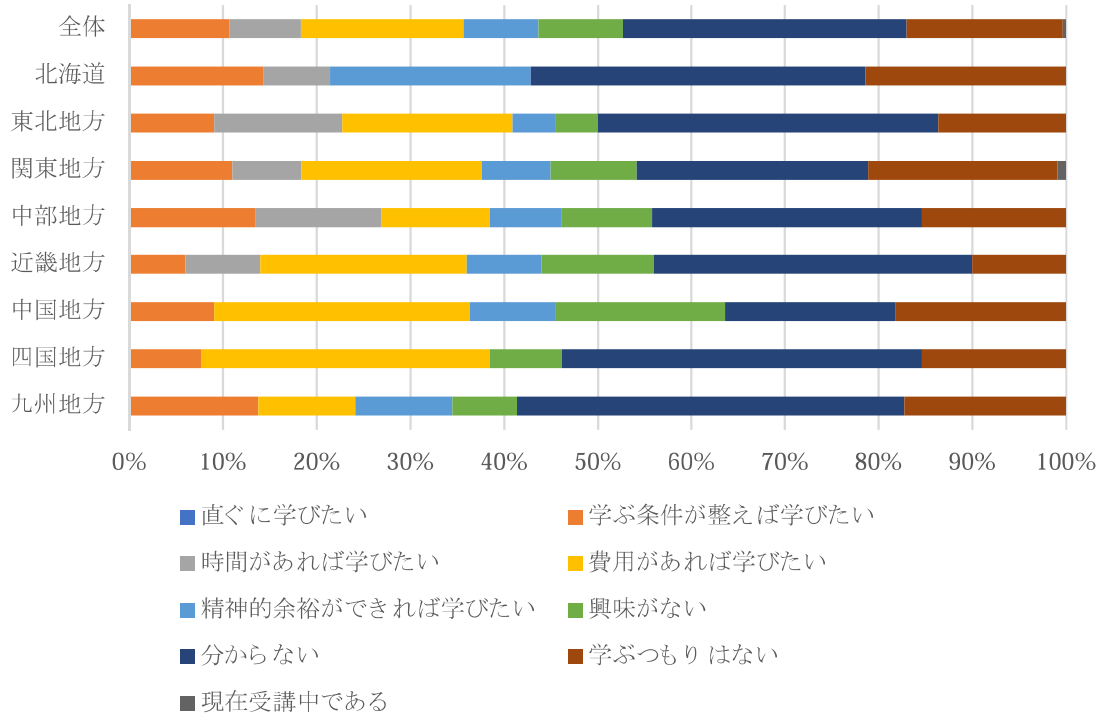
学びの需要：専業主婦



学びの需要：パート・アルバイト



学びの需要：職を持っている人



II. 実行委員会協力による調査

■調査方法 WEBアンケート調査

■アンケートの依頼方法

各実行委員から社会人女性に対して、アンケートの回答依頼を行った。依頼方法、依頼時期、依頼件数等について次に示す。

東京労働局

社会人女性対象のアンケートについては、2018年11月～12月にマザーズハローワーク東京の相談窓口において、窓口相談や予約相談の求職者に直接紙形式で配付を行った。窓口利用者の回収率は高かった。

文京区役所

文京区総務課ダイバーシティ推進担当より、区内の女性に対し本事業に関するアンケート調査へ協力を依頼した。

実施方法は、QRコード付きのチラシをダイバーシティ推進担当の窓口と男女平等センターに配架したり、セミナー等イベントの際に配布したり、区内在住の区職員と文京区女性団体連絡会の会員に直接アンケートへの協力をお願いした。チラシ配布は約50枚、直接の働きかけは約20人であった。

豊島区役所

豊島区の住民基本台帳から25歳～54歳までの女性（学生は除く）、2,000名を無作為抽出した。その際、1世帯に1人までを抽出した。依頼方法はWEBアンケートのQRコード、URLを記載（返信用封筒は使用しない）した依頼文書を郵送にて配布した。

アンケート発送日は12月6日（木）で、アンケートの回答期間は12月7日（金）～16日（日）であった。

鳥取県庁

子育て応援パスポート登録者（約1万人）を対象にメールマガジンにより発信して、女性のリカレント教育に関するアンケート調査の依頼をした。

日本女子大学

依頼方法はWEBアンケートのQRコード、URLを記載した依頼文書を、日本女子大学関係者に直接チラシを配布したり、メールやLINEにより関係者に依頼した。また、リカレント教育課程が開催する2019年度入学者を対象とした「入学・キャリア相談会」参加者にアンケートを配付し回答を得た。リカレント教育課程受講生、修了生にはメールで依頼した。

さらに、京都女子大学、玉川大学、埼玉女子短期大学の卒業生や関係者にアンケートの協力をお願いした。

■実施期間 2018年11月13日(火)～12月19日(水)

■実施機関と回答数

アンケートの実施期間は第 1 章の実施体制で示した実行委員とアンケート協力の青山学院女子短期大学である。それぞれから情報を発信した結果、アクセス数は 1,624 ほどあり最終的に 931 人からの回答を得た。なお、前述のように、日本女子大学では京都女子大学、玉川大学、埼玉女子短期大学にも発信を依頼しており、280 名の回答者にはこの 3 大学の協力での回答者も含まれている。

実施団体	回答者数(人)
日本女子大学	280
日本女子大学リカレント受講生・修了生	89
東京労働局	21
文京区	8
豊島区	266
鳥取県	7
名古屋大学	60
青山学院女子短期大学	200
総合計	931

■回答者の内訳

現時点で、データが手元にあるものは、以下のものであるが、他に実行委員会の名古屋大学、アンケート協力の青山学院女子短期大学によるアンケート調査を行っている。

豊島区については、豊島区在住の女性 20 歳代から 50 歳代まで 2,000 名に対して郵送でアンケート調査の協力を依頼し、QR コードの読み取り、HP へのアクセスによるアンケート調査を実施した。

その他のカテゴリーにおいては、年齢制限は設けていない。日本女子大学については 50 歳代が 160 人以上回答している。全体としては 40 歳代後半が最も多く、モニタ調査に比べて年齢層は高い。

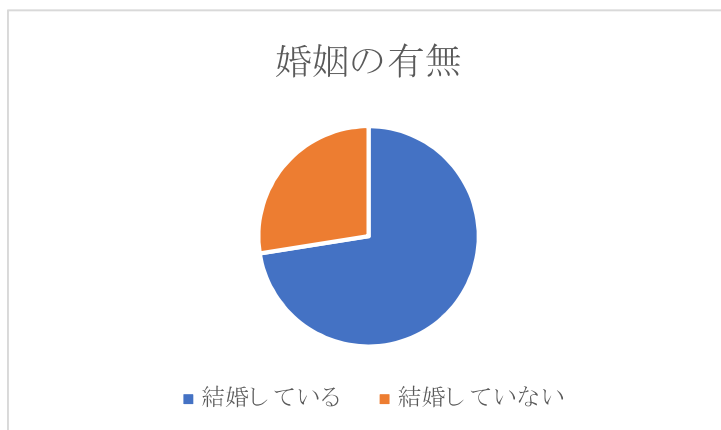
カテゴリー別回答数

	日本女子 大学	東京 労働局	文京区	豊島区	鳥取県	受講生・ 修了生	合計	(%)
20～24 歳	15	1	0	0	0	0	16	2.4
25～29 歳	13	1	1	38	0	0	53	7.9
30～34 歳	36	3	0	35	3	3	80	12.0
35～39 歳	21	5	0	49	1	13	89	13.3
40～44 歳	39	4	2	44	1	26	116	17.4
45～49 歳	51	3	1	60	1	28	144	21.6
50～54 歳	41	4	2	40	1	12	100	15.0
55～59 歳	62	0	1	0	0	3	66	9.9
60 歳以上	2	0	1	0	0	1	4	0.6
合計	280	21	8	266	7	86	668	100.0

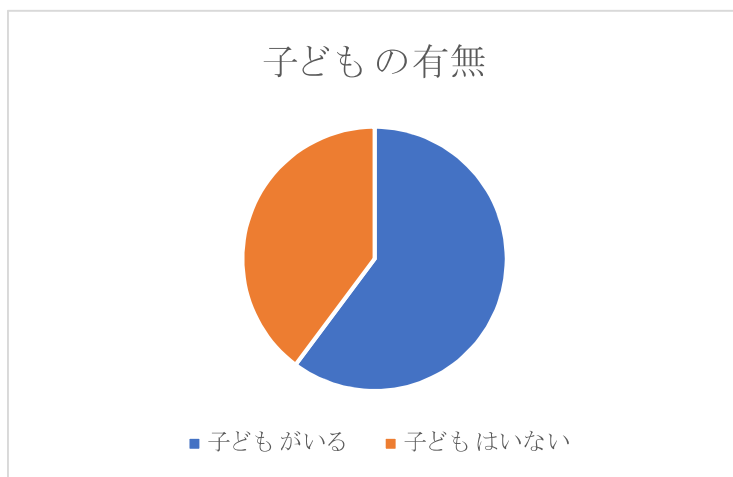
(人)

■家族状況

【婚姻の有無】

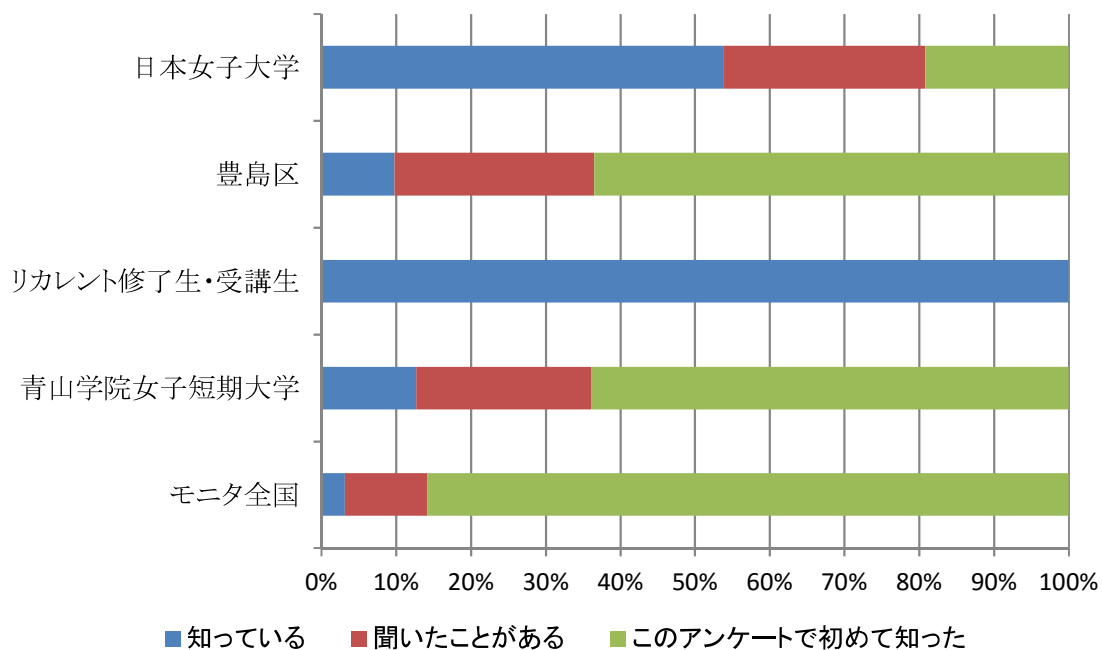


【子供の有無】



■回答結果について

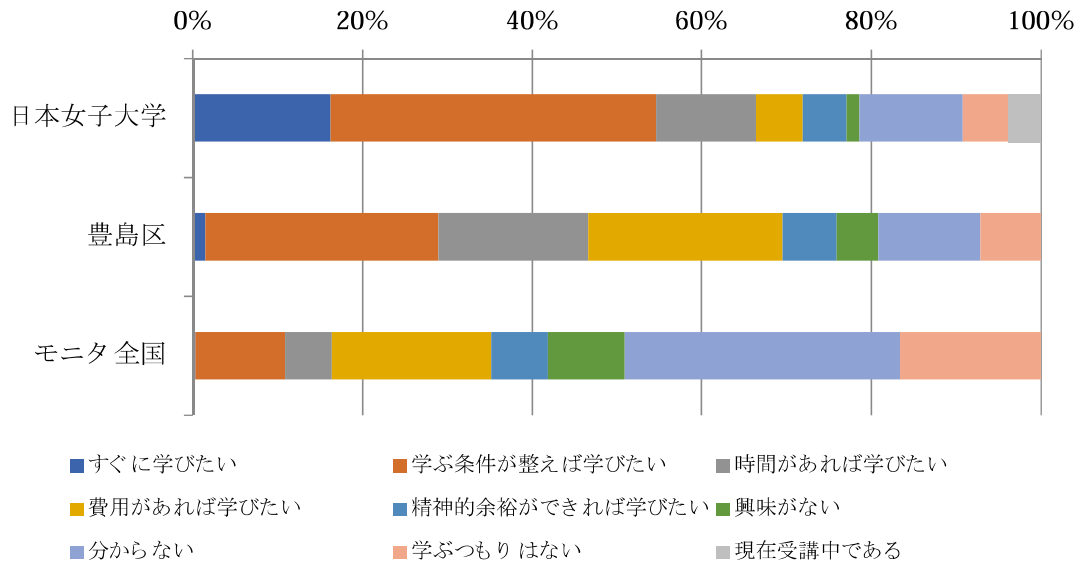
【リカレント教育の認知度】



リカレント修了生・受講生が全員知っていることは当然の結果である。日本女子大学からの依頼回答者では54%が知っている、27%が聞いたことがあると答えており、全く知らなかった人は20%であった。この結果は本学にリカレント教育課程が設置されているためであり、特異な例といえよう。

モニタ調査ではリカレント教育認知度が15%と極めて低かったが、豊島区の調査でも64%がこのアンケートで“始めて知った”と答えており、これが一般的な女性のリカレント認知度と考えてよいだろう。

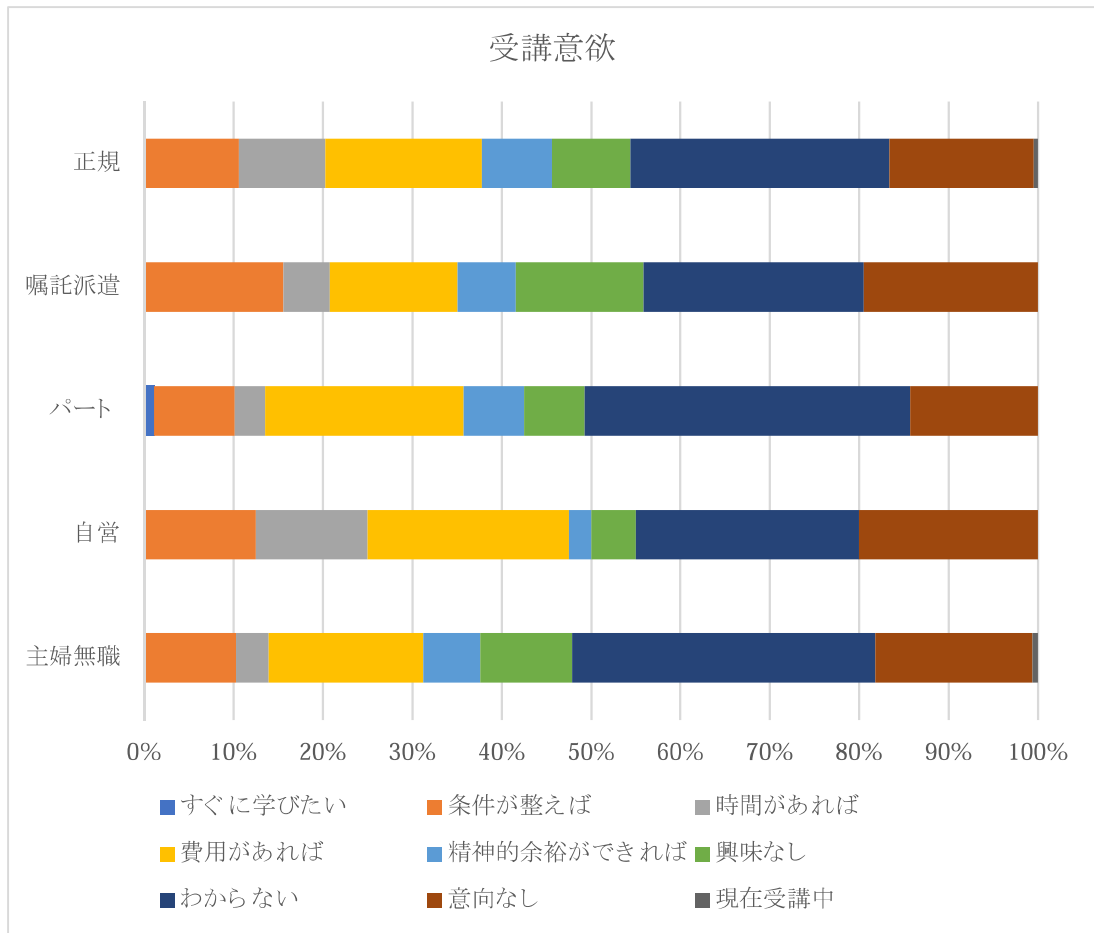
【リカレント受講の意欲】



今回の調査では、モニタ調査でも 42%が条件がそろえば、リカレント教育課程を受講する意欲を示した。日本女子大学の呼びかけでアンケートに応じた人の 77%、豊島区によるアンケートでも 80%とリカレント教育課程を知ることが、受講希望につながる可能性を示している。

また、リカレント修了生・受講生は本学のリカレントを受講したうえで、さらに学ぶ意欲を示している。この結果は、学ぶことを希望している人は修了生であると思われるが、再就職をして実際に働いてみて、自分のスキルや知識が十分でないと思ったり、リカレントで学んだ以外のスキル等の必要性を感じたりしていることを示唆している。

この結果を就労状況別に集計し直したグラフを次に示す。



現在の就労形態の属性別で比較すると、正規 46%、嘱託派遣 42%、パート 42%、自営 50%、主婦が最も低く 38%が、条件がそろえばリカレント教育を受講したいと回答している。モニタ調査と比較すると正規雇用の希望者が若干少ない。

グラフには示さないが、婚姻していない人はリカレント教育に興味薄い、婚姻している人は育児や介護等の問題がある。職場に必要なスキルは結婚している人の方が必要性を強く感じている。仕事と離れているから、そのように感じるということも考えられる。

【リカレント教育を受講したい理由】

次にリカレント教育を受けたいと思う理由について表に示す。

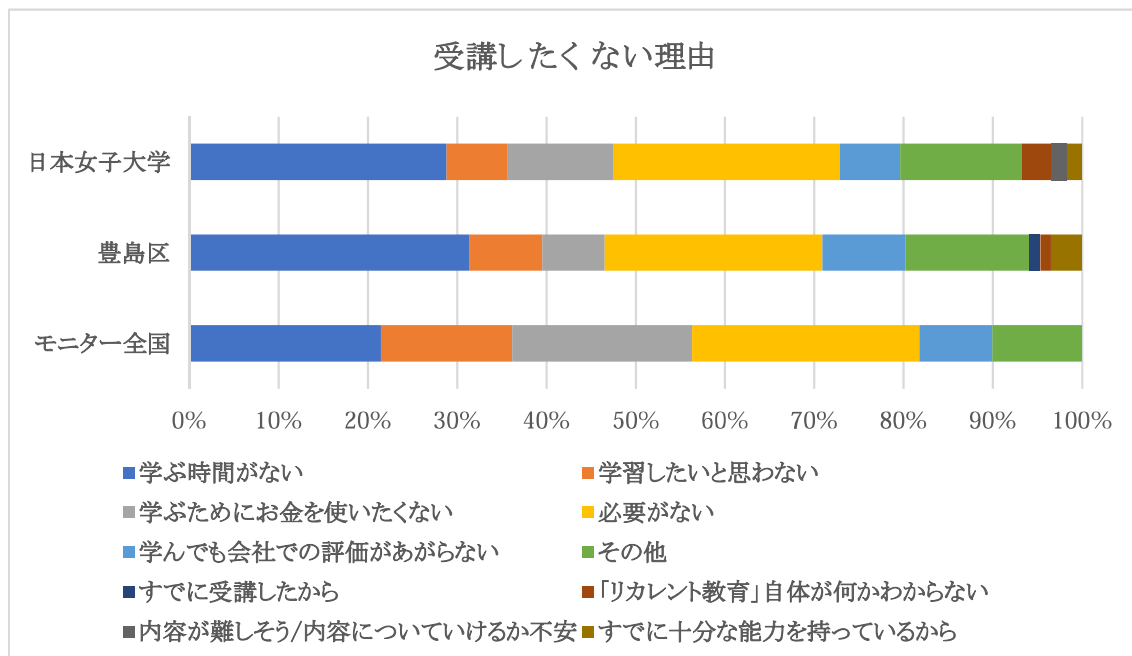
設問	全体	日本女子 大学	豊島区	リカレント修了生・ 受講生
自分を高めるため	61.6	64.4	59.4	60.7
新しいことへの挑戦	55.3	53.0	60.4	50.0
スキルアップしたい から	64.6	66.2	62.9	71.4
キャリアアップした いから	30.2	32.0	25.7	38.1
離職してからのブラ ンクを埋めたいから	14.5	16.9	5.9	31.0
就職したいから（現 在働いていない方）	17.7	19.2	7.4	45.2
転職したいから（現 在働いている方）	16.4	23.3	12.4	11.9
復職したいから（元 在籍企業に戻る）	1.9	2.7	1.0	1.2
起業したいから	6.1	5.5	6.4	6.0
その他	2.2	1.8	2.5	1.2

(%)

全体的にみるとスキルアップしたいが 65%ほどで、自分を高めるため(62%)、新しいことへの挑戦(55%)と続く。日本女子大学、豊島区、リカレント修了生・受講生いずれもその順位は変わらないが、リカレント生はスキルアップしたいと考えている人が 70%を超える。やはり再就職を目指すためには、スキルアップが必要と感じていることがわかる。また、リカレント生で現在働いていない人は就職したいからが 45%で、ここでも再就職を強く望んでいることが示されている。

【リカレント教育を受講したくない理由】

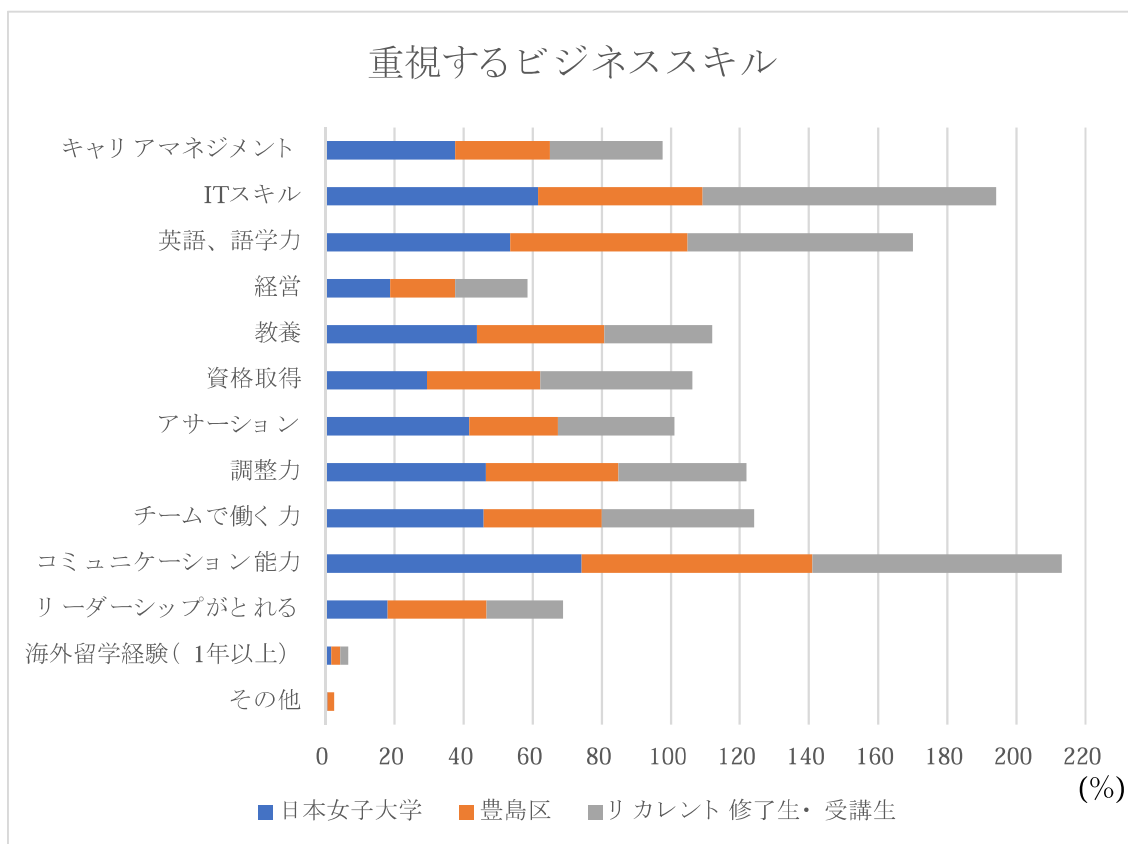
受講したくないと思う人のその理由を次のグラフに示す。



受講したくない理由としては、「学ぶ時間がない」が最も多く、特に豊島区では、43%にもものぼる。次に「必要がない」であるが、モニタ調査ではこちらが最も多く26%である。モニタ調査では、「お金を使いたくない」20%と高いが、豊島区の調査では、こちらが10%を切る。地域差などもあるのかもしれない。さらなる分析を進めたい。

【重視するビジネススキル】

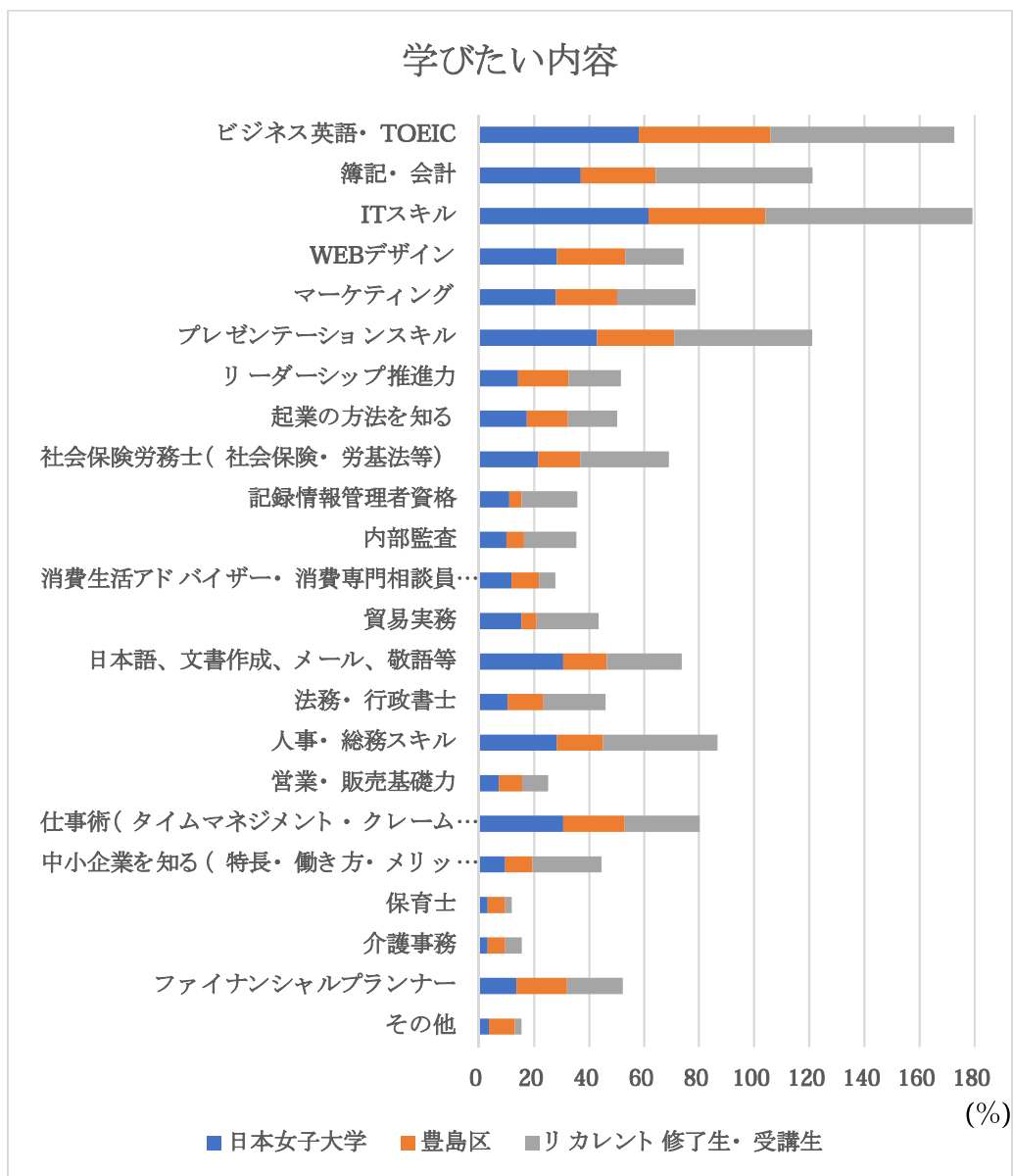
女性たちは仕事をしていくうえで、どのようなスキルが重要だと考えているのだろうか。



ITスキルや英語の能力の必要性ももちろん感じているが、グラフからコミュニケーション能力の回答数が突出して高い。調整力、チームで働く力、アサーションなども回答数が200を超えており、この点も併せて考えると、職場での人間関係が非常に重要であると考えていることがわかる。企業に対するアンケート結果については第5章で後述するが、女性の中途採用者に求める能力、採用に関して重要視する点に関して、コミュニケーション能力の得点が高く、能力スキルは問うていない。スキルより、働く意欲と社風に合うかどうかあたりがポイントのようである。

【学びたい内容】

女性たちはリカレント教育課程で何を学びたいのだろうか。回答集計結果をグラフに示す。



グラフから学びたい内容の上位は、ITスキル、ビジネス英語・受講生・TOEICがほぼ同数で1位、2位となっている。次にプレゼンテーションと簿記・会計がやはりほぼ同数で3位と4位である。その他は、人事・総務スキル、仕事術、マーケティング、日本語、社労士、WEBデザインと続く。モニタ調査の結果と比較すると英語の点数が低く、人事・総務スキルが高くなっているが、ほぼ傾向は一致している。

すなわち、再就職支援のためのリカレント教育課程には、モニタ調査の結果も含めて考えると、IT、英語、プレゼンテーション、簿記の科目は必須で、仕事術、人事・総務スキル、WEBデザイン、社

労士は選択科目として必要、ファイナンシャルプランナー、リーダーシップ力などの科目設置も検討する必要がある。

全国レベルのモニタ調査結果と日本女子大学及び豊島区の結果を比較してみたい。

	ビジネス英語・TOEIC	簿記・会計	ITスキル	WEBデザイン	マーケティング	プレゼンテーションスキル
日本女子大学	58.0%	37.0%	61.6%	28.3%	27.9%	42.9%
豊島区	48.0%	27.2%	42.6%	24.8%	22.3%	28.2%
リカレント修了生・受講生	66.7%	57.1%	75.0%	21.4%	28.6%	50.0%
モニター全国	40.7%	24.8%	34.3%	19.9%	17.4%	20.2%

	リーダーシップ推進力	起業の方法を知る	社会保険労務士（社会保険・労基法等）	記録情報管理者資格	内部監査	消費生活アドバイザー・消費専門相談員資格
日本女子大学	14.2%	17.4%	21.5%	11.0%	10.0%	11.9%
豊島区	18.3%	14.9%	15.3%	4.5%	6.4%	9.9%
リカレント修了生・受講生	19.0%	17.9%	32.1%	20.2%	19.0%	6.0%
モニター全国	12.5%	11.3%	12.8%	3.1%	2.8%	12.0%

	貿易実務	日本語、文書作成、メール、敬語等	法務・行政書士	人事・総務スキル	営業・販売基礎力	仕事術（タイムマネジメント・クレーム対応力等）
日本女子大学	15.5%	30.6%	10.5%	28.3%	7.3%	30.6%
豊島区	5.4%	15.8%	12.9%	16.8%	8.4%	22.3%
リカレント修了生・受講生	22.6%	27.4%	22.6%	41.7%	9.5%	27.4%
モニター全国	3.8%	16.4%	11.5%	11.8%	9.2%	22.3%

	中小企業を知る（特長・働き方・メリット等）	保育士	介護事務	ファイナンシャルプランナー	その他
日本女子大学	9.6%	3.2%	3.2%	13.7%	3.7%
豊島区	9.9%	6.4%	6.4%	18.3%	9.4%
リカレント修了生・受講生	25.0%	2.4%	6.0%	20.2%	2.4%
モニター全国	8.2%	8.7%	7.7%	14.8%	4.1%